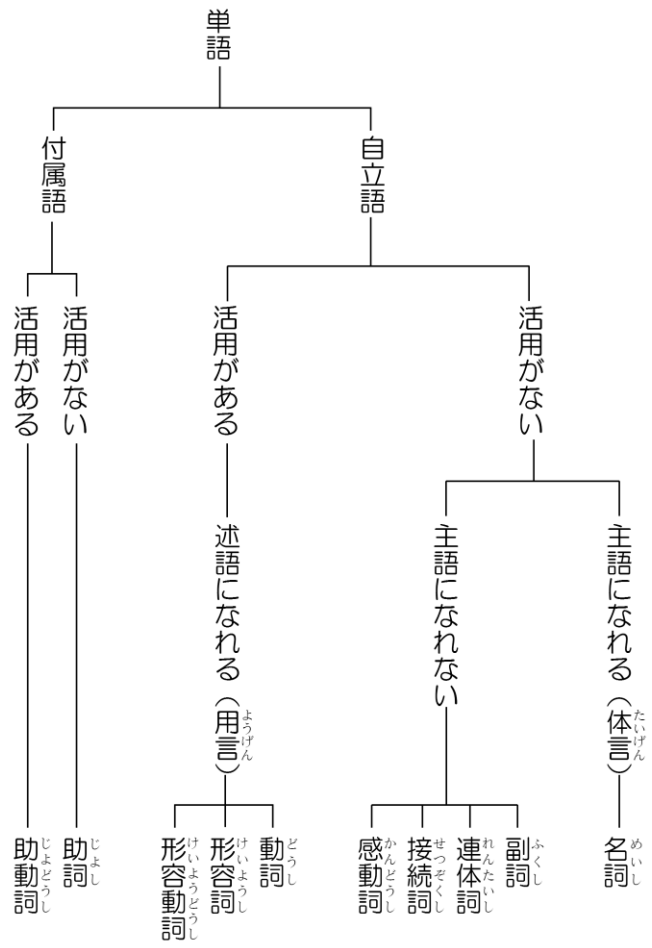


品詞／まとめ

単語は、十の種類（品詞）に分けられる。



名詞（体言）とは

確認① 名詞の性質

① 自立語で活用がない。

例 家目で付本目を付読む目。
（自＝自立語、付＝付属語）

↓「家」「本」は独立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 物の名前や事がらを表す。

例・海で泳ぐ。
 ・人口の増加が問題になる。

確認② 名詞の働き

▼ 名詞は、それだけで、または他の語を伴って、次のような働きをする。

① 「は・が・こそ」などを伴って主語になる。

例 犬は かわいい。 家が 建つ。 君こそ 代表だ。

② 「だ・です」などを伴って述語になる。

例 これは 本だ。 材料は 卵です。

③ 「の・を・に」などを伴って修飾語になる。

例 犬の 散歩。 水を 飲む。 公園に 行く。

④ 独立語になる。

例 京都、そこは日本でいちばん好きな場所だ。

練習問題 名詞（体言）

1 次の□から名詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) 黒板 転ぶ () 黒板

(2) 決して 丸い 青森県 () 青森県

(3) 固い テント もっと () テント

2 次の文から名詞をすべて書きぬきなさい。

(1) 図書館で借りた資料を返す。 ()

() 図書館・資料 ()

(2) 単語の意味を辞書で調べる。 ()

() 単語・意味・辞書 ()

(3) 将来の進路について考える時間がほしい。 ()

() 将来・進路・時間 ()

3 次の——線部は、文中で 主語・述語・修飾語・独立語 のうちのどの働きをしていますか。

(1) 風が 強く 吹いて いる。 () 主語

(2) あそこに いるのは、祖父です。 () 述語

(3) 日曜日に 映画館に 行った。 () 修飾語

(4) 卒業、それは 新しい 旅立ちだ。 () 独立語

動詞

確認① 動詞の性質

① 自立語で活用がある。

例 弟 ^自は / ^付早く / ^自起きる。 (自＝自立語、付＝付属語)

↓「起きる」は自立語で、「起き(ない)・起きれ(ば)」などと語形が変わる。

② 動作(どうずする)・作用(どうなる)・存在(ある)を表し、それだけで述語になることができる。

例 ・海で泳ぐ。(動作)
・風が吹く。(作用)
・犬がいる。(存在)

③ 「泳ぐ。」「吹く。」「泳ぐ。」「吹く。」「泳ぐ。」「吹く。」など、言い切りの形がウ段の音で終わる。

例 泳ぐ。吹く。泳ぐ。吹く。泳ぐ。吹く。

※「言い切りの形」とは、形がかわる前の「まの形」のことです。

確認② 動詞の働き

▼ 動詞は、それだけで、または他の語を伴って、文中で次のような働きをする。

① 述語になる。例 母が笑う。

② 修飾語になる。例 笑う声が聞こえた。

③ 「の」と「は」などを伴って主語になる。例 笑うのは母だ。

※この場合の「の」「は」という名詞のかわりにつかわれている。動詞は、下に名前をつけないと、主語にはなれない。単独で主語になれるのは、名詞だけであることにも注意する。

④ 「の」「は」などを伴って接続語になる。例 笑うので、悔い。

練習問題 動詞

① 次の□から動詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) 楽しい 書く 複雑 () **書く**

(2) 作る やがて たくさん () **作る**

(3) 寒い ある お客 () **ある**

② 次の単語の中から動詞を選び、□で囲みなさい。

銀行 **知る** さびしい **泳げる** **もらう** 交通
振り返る やがて 小さな **歩ける**

③ 次の——線部は、文中で 述語・修飾語・主語・接続語 のうちのどの働きをしていますか。

(1) 弟が 大声で 呼ぶ。 () **述語**

(2) 弟の 呼ぶ 声が 聞こえた。 () **修飾語**

(3) 向こうで 呼ぶのは、僕の 弟だ。 () **主語**

※「の」「は」「人」のかわりにつかわれている。

(4) 呼ぶので、急いで 駆けつけた。 () **接続語**

(5) 兄は、弟を 呼びに 行った。 () **修飾語**

形容詞

確認① 形容詞の性質

① 自立語で活用がある。

例 海 から／ふく／風 が **すずしい**。
(自＝自立語、付＝付属語)

↓ 「すずしい」は自立語で、「すずしく／(な)く・すずま／けわ(ば)」などとして語形が変わる。

② 終止形が「い」で終わる。

例 荷物が軽い。 優勝してうれしい。 その船は大きい。

確認② 形容詞の働き

▼ 形容詞は、それだけで、または他の語を伴って、文中で次のような働きをする。

① 述語になる。

例 音楽の 授業は **楽しい**。

② 修飾語になる。

例 ・**楽しい** 番組を 見る。
(連体修飾語)

・**楽しく** おどる。
(連用修飾語)

③ 「の」と「は」が「などを伴って主語になる。」この場合の「の」「は」「と」「は」という名詞のわりにつかわれている。動詞は、下に名詞をつけないと主語にはならない。単独で主語になれるのは、名詞だけであることにも注意する。

例 **楽しい**のは、君だけだ。

④ 「ので」などを伴って接続語になる。

例 **楽しい**ので、帰りたくない。

練習問題 形容詞

① 次の単語の中から形容詞を選び、で囲みなさい。

冷たい 出会い 弱い 喜び よい

解説 「出会い」などの活用しない語は、「い」で終わっても形容詞といえない。「出会い」は物の性質や状態もあらわさない。

② 次のから形容詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) おかしい 積もる 簡潔 () **おかしい**

(2) 身近 たいてい 安い () **安い**

(3) 係る 悲しい 売り物 () **悲しい**

③ 次の——線部は、文中でどんな働きをしていますか。から選んで書きなさい。

(1) 力が 強い。 () **述語**

(2) 強い力で 綱を 引く。 () **連体修飾語**

(3) 綱を 強く 引く。 () **連用修飾語**

(4) 強いのは、君の 腕力だ。 () **主語**

(5) 強いので、だれも かなわない。 () **接続語**

主語 連体修飾語 連用修飾語 述語 接続語

形容動詞

確認① 形容動詞の性質

① 自立語で活用がある。

例 天気 自 が / 昨日 自 より / おだやかだ。

↓ 形容動詞

「おだやかだ」は自立語で、「おだやかで(ない)・おだやかなら(ば)」「おだやかになる」など語形が変わる。

② 終止形(言い切りの形)が「だ」「です」「だ」「の丁寧な言い方」で終わる。

例 きれいだ・簡単だ・きれいです・簡単です。

確認② 形容動詞の働き

▼ 形容動詞は、それだけで、または他の語を伴って、文中で次のような働きをする。

① 述語になる。

例 部屋が きれいだ。

② 修飾語になる。

例 ・きれいな ハンカチを使う。(連体修飾語)

例 ・部屋を きれいに 片つける。(連用修飾語)

③ 「の」と「は」が「を」などを伴って主語になる。

例 きれいなのは、君の 手だ。

④ 「ので」などを伴って接続語になる。

例 きれいなので、写真に うつう。

練習問題 形容動詞

① 次の□から形容動詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

- | | | | | | |
|-----|-----|-------|------|-----|-------|
| (1) | 怒る | さわやかだ | 大きい | () | さわやかだ |
| (2) | 豊かだ | 喜び | すぐに | () | 豊かだ |
| (3) | 出す | そして | 活発です | () | 活発です |

② 次の単語の中から形容動詞を選び、□で囲みなさい。

静かだ 台風だ 大きな おだやかだ 大きい

解説 「台風だ」は「名詞+助動詞」、「大きな」は連体詞、「大きい」は形容詞。形容動詞は「だ」の部分を「な」と変化させることができる。静かな→○ 台風な→×

③ 次の——線部は、文中でどんな働きをしていますか。□から選んで書きなさい。

- | | | | | |
|-----|-------------------------|--------|-----|-------|
| (1) | 彼の <u>性格</u> は | おおらかだ。 | () | 述語 |
| (2) | おおらかな <u>ところ</u> が | 長所だ。 | () | 連体修飾語 |
| (3) | 物事を <u>おおらかに</u> | 考える。 | () | 連用修飾語 |
| (4) | おおらかなのは、彼の <u>性格</u> だ。 | | () | 主語 |
| (5) | おおらかなので、 <u>気に</u> | しない。 | () | 接続語 |

主語	連体修飾語	連用修飾語	述語	接続語
----	-------	-------	----	-----

解説

「じょうではななく」もの「じ言葉を変えて!!

副詞

確認① 副詞の性質と働き

① 自立語で活用がない。

例 雨がザーザーと降る。(自＝自立語、付＝付属語)

↓ 「ザーザー」と「自」自立語で、あと「続へ言葉」でよって語形が変わらない。

② 状態(どのよう(に)や程度)などの(い)を表す。

例・お日様がさんさんと照る。(い)の(い)ひ(い)る。

・人がたくさんいる。(い)の(い)ら(い)る。

③ 単独で主語や述語などにならず、主に連用修飾語になる。

例・じつじつにほほえむ。(動詞の文節を修飾)

・今日はとても寒い。(形容詞の文節を修飾)

・海が大変おだやかだ。(形容詞の文節を修飾)

※「修飾する」「と」「へ」の説明する「この」意味です。「ほほえむ」「だ」は、どのよう(に)ほほえむのかかわからな。「さ」は、「さ」だけでは、どの(い)の(い)のかかわからな。

練習問題 副詞

1 次の文から副詞を書きぬきなさい。

(1) 足のけがをじっくり治療する。 ()

(2) 梅の木がずいぶん大きくなった。 ()

(3) おそらく彼はやって来るだろう。 ()

(4) 竹とんぼがくるくる回って飛んだ。 ()

(5) 家に帰ると、すぐに宿題を済ませた。 ()

2 次の文から副詞を探して↓の上に書きぬきなさい。また、その副詞が修飾している言葉を一文節で下に書きぬきなさい。

(1) 山田さんは、言葉遣いがとても丁寧だ。 ()

() とても () ↓ () 丁寧だ ()

(2) 風が吹いて、カサカサと木の葉が鳴る。 ()

() カサカサと () ↓ () 鳴る ()

(3) すらすら問題が解けるのは、うれしい。 ()

() すらすら () ↓ () 解けるのは ()

(4) 転校生が来るといふ話は、だいぶ前に聞いていた。 ()

() だいぶ () ↓ () 前に ()

(5) ぜひキャンプに参加したいと彼も言っていた。 ()

() ぜひ () ↓ () 参加したいと ()

(6) 忙しくて、まったく理髪店に行けなかったので、髪の毛がかなり伸びた。 ()

() まったく () ↓ () 行けなかったので ()

() かなり () ↓ () 伸びた ()

連体詞

確認① 連体詞の性質と働き

① 自立語で活用がない。

例 いろんな / 思い出 を / 話す。

↓ 「いろんな」は自立語で、「あと」が続く言葉によって語形が変わらない。

② 「どの・どんな」を表す。

例 (どの) この本 あの家 例の話

(どんな) あらゆる情報 どんな失敗 大きな犬

③ 常に連体修飾語となり、体言をふくむ文節を修飾する。
例 たいした 感性を もって いる。

確認② 連体詞のいろいろ

▼ 連体詞には、次のような型がある。

- ① 「の」型…この・その・あの・どの・例の
- ② 「な」型…小さな・大きな・おかしな・いろんな
- ③ 「た」型…たいした・とんだ
- ④ 「る」型…あらゆる・ある・いわゆる・去る
- ⑤ その他…我が・あらぬ

例 我が 国の 政治。
※「小さい」「大きい」「おかしな」は、形容詞。

練習問題 ～連体詞～

① 次の文から、連体詞を探して () に書きぬきなさい。

(1) その 本は わたしが 借りた ものです。

(2) その () 本は ()

(3) 村には おかしな 話が ある。

(4) () おかしな () 話が ()

③ 次の 線部の連体詞が修飾している言葉を一文節で書きぬきなさい。

(1) あの 人に 聞いて みる。() 人に ()

(2) とんだ 事件が 起こる。() 事件が ()

(3) ここが いわゆる 原宿か。() 原宿か ()

④ 次の 線部を修飾している連体詞を書きぬきなさい。

(1) 店には いろんな 商品が ある。() いろんな ()

(2) 君の お父さんは どの 人? () どの ()

(3) それは たいした 傷では ない。() たいした ()

接続詞

確認① 接続詞の性質

① 自立語で活用がない。

例 のど ^自 が / か ^付 わく。 だから ^自 / 水 ^付 を / 飲む。 (自||自立語、付||付属語)

↓ 接続詞

↓ 「だから」は自立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 文と文、文節と文節をつないで、どんな関係で前後がつながっているかを示す。

例 ・ 雨が降った。 それで、 水 ^文 たまり ^文 が ^文 でき ^文 た。 (文と文をつなぐ)

・ 川 ^{文節} また ^{文節} は 海 ^{文節} で 泳 ^{文節} ぐ。 (文節と文節をつなぐ)

③ それだけで接続語になることができる。

確認② 接続詞の種類(1)

① 順接…だから・そこで・すると・したがって・よって

② 逆接…しかし・だが・ところが・けれど・だけども・でも・が

③ 並立・累加…そして・しかも・なお・それに・さらに・また

④ 対比…選択…または・それとも・あるいは・もしくは

⑤ 説明…つまり・なぜなら・例えば・すなわち・ただし

⑥ 転換…さて・ところで・では・ときに・それでは

練習問題

接続詞

1 次の「」にあてはまる接続詞を □ から選んで書き入れなさい。

(1) 試合に負けた。「だから」もっと練習しよう。

(2) 説明を終わります。「ところで」今何時ですか。

(3) 雲が出てきた。「だが」雨は降らないだろう。

(4) 明日は体育祭です。「なお」来週は文化祭です。

(5) 海へ行こうか。「それとも」山へ行こうか。

(6) これは捨てよう。「なぜなら」傷みが激しいからだ。

それとも なお なぜなら
 ところで だから だが

2 次の——線部の接続詞と同じ種類のものを □ から選んで書きなさい。

(1) 映画を見た。けれど、つまらなかった。 () **ところが** ()

(2) 芝居が好きだ。そこで、演劇部に入った。 () **したがって** ()

(3) 彼はまじめで、しかも働き者だ。 () **それに** ()

(4) 新聞**または**雑誌をご覧ください。 () **あるいは** ()

あるいは したがって
 ところが それに

感動詞

確認① 感動詞の性質

① 自立語で活用がない。

例 おや、／雨 が／降っ て／き たぞ。(自||自立語 付||付属語)

↓
感動詞

「おや」は自立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 話し手の感動・呼びかけ・応答・あいさつなどを表す。

例・ああ、見事な 景色だなあ。(感動)
・さあ、出発しよう。(呼びかけ)
・はい、そのとおりです。(応答)
・「こんにちは、村田さん。(あいさつ)

③ 多くは文の最初にきて、独立語になる。

例 ねえ、ちょっと 待ってよ。

確認② 感動詞の種類

- ① 感動 (おや・あら・まあ・やあ・あっ など)
- ② 呼びかけ (ねえ・ほら・もしも・ねえ など)
- ③ 応答 (ええ・いいえ・そう など)
- ④ あいさつ (こんにちは・こんばんは など)
- ⑤ かけ声 (むっむっ・やっやっ・それ など)

練習問題 感動詞

1 次の文から感動詞を書きぬきなさい。

(1) まあ、なんてきれいな花でしょう。 ()

(2) もしもし、横井さんですか。 ()

(3) いや、たいしたことはないよ。 ()

(4) こんばんは、今日も暑かったですね。 ()

2 次の文から「」の種類感動詞を書きぬきなさい。

(1) いよいよ明日が公式戦だ。さあ、今日も頑張ろう。 ()

(2) 「私が持ちましようか。」「ええ、よろしく願います。」 ()

(3) よいしょ。やっと全部運び終えたね。 ()

(4) あら、ハンカチを忘れてしまった。どうしよう。 ()

(5) 中川さん、おはよう。 ()

「あいさつ」 () おはよう ()

「感動」 () あら ()

「かけ声」 () よいしょ ()

「応答」 () ええ ()

「呼びかけ」 () さあ ()

助詞

確認① 助詞の性質

① 付属語で活用がない。

例 話 **を** する。(自=自立語、付=付属語)

↓ 助詞

↓ 「を」は、「話」という名詞(体言)のあとに付いて文節を作っているの
で、付属語である。付属語はそれだけでは意味がわからない。
↓ あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 体言や用言、他の付属語について、語と語の関係を示したり細かい意味を付
け加えたりする。

例・母 **が** 見る。「母」が主語であることを示す

・母 **を** 見る。「見る」対象を示す

・**じつ** **も** **て** **も** がんばる。(前後が逆接であることを示す)

・**じつ** **の** **で** あきどめる。(前後が順接であることを示す)

・理科 **だけ** 好きだ。「理科」に限定する意味を示す

・理科 **も** 好きだ。「理科」が他の同類であることを示す

練習問題 助詞

① 次の文中の助詞を○で囲みなさい。

- (1) 花 **が** 咲く。
- (2) 学校 **から** 帰る。
- (3) 私 **は** 高校生 **に** なる。
- (4) 自分 **の** 名前 **を** 書く。
- (5) 母 **と** デパート **へ** 行く。

③ 次の () にあてはまる助詞を から選んで書き入れなさい。

・花 (**が**) かれた (**ので**)、花瓶 (**の**) (水) (**を**) 替えた。

が を の ので

④ 次の文を、例にならって、助詞には——線を付けなさい。

- 例 梅 の / 花 が / 咲く。
- (1) 姉 が / 昨日 / 学校 を / 休んだ。
 - (2) 彼は 僕 より / 絵 が / 上手だ。
 - (3) お正月 に / お年玉 を / たくさん / もらった。
 - (4) 隣の 町 へ / 買い物 に / 行った。

解説

まず文節に区切ってから単語に分ける。各文節の下の単語「姉が」「など」に着目し、それが活用しなければ助詞である。助詞(と助動詞)が文節の初めにくることはない。

助動詞

確認① 助動詞の性質と働き

① 付属語で活用がある。

例 おやつ は／食べ **ない**。

↓「ない」は、自立語(動詞)「食べ」に付いて文節を作っているので付属語である。

↓「なかつた」「なければ」「なごう活用する」。

② 用言や体言、助詞や他の助動詞に付いて、いろいろな意味を付け加えたり、

話し手(書き手)の判断を表したりする。

例・生で食べ**られる**。(可能を表す)

・冬山には登**らない**。(否定を表す)

※助動詞には、ほかに次のような語がある。

「れる」「られる」

「ぬせ」「ぬせぬ」

「だ」「たがる」

「だ」「ぬ」「ぬ」

「ぞ」「だ」「ぬ」「ぬ」「ぬ」「ぬ」「ぬ」「ぬ」「ぬ」「ぬ」

「し」「ぬ」「ぬ」「ぬ」

「ぬ」「ぬ」

「だ」

練習問題 助動詞

1 次の()に、——線部の助動詞を活用させて書き入れなさい。

- (1) 頭を働かせる。↓「頭を働か() **せ** () よう。」
- (2) 急用で行けない。↓「急用で行け() **なく** () なる。」
- (3) 早く帰ります。↓「早く帰り() **ましょ** () う。」
- (4) 先生になりたい。↓「先生になり() **たかつ** () た。」

2 次の「」の意味に合う助動詞を、から選んで書き入れなさい。(助動詞は一回ずつしか使えません。)

- (1) 「否定」…この機械は動か() **ない** () 。
- (2) 「たとえ」…まるで赤い花びらの() **ようだ** () 。
- (3) 「推定」…明日も晴れる() **らしい** () 。
- (4) 「断定」…これは父のかばん() **だ** () 。

だ らしい ない ようだ